

夢のつばさ♥プロジェクト 平成26年度 事業報告書（案）

2014年4月1日～2015年3月31日

1. キャンプ

(1) 夏キャンプ

【実施期間】2014年8月5日～8月8日

【開催地】(株)ブリヂストン保養所 奥多摩園

【参加内訳】子ども22名、学生ボランティア40名（途中入替わりを含む）、スタッフ・協力者15名

【主な内容】

| | |
|-------|------------------------------------------|
| 8月 5日 | 開会式、アイスブレイクゲーム |
| 8月 6日 | 朝の勉強会、中高生企画（障害物競争）、動画作り、音楽会（ジャズトリオ） |
| 8月 7日 | 小学生：科学技術館・浅草観光（貸切バス）、中高生：大学訪問・原宿観光（電車利用） |
| 8月 8日 | (株)ブリヂストン社訪問、閉会式、写真スライドショー |

(2) 秋の交流会

【実施期間】2014年10月19日

【開催地】宮城県仙台市

【参加内訳】子ども17名、学生ボランティア24名、スタッフ3名

【主な内容】秋に実施する初めての夢のつばさプロジェクトの行事として、学生執行部が企画し、これまでに参加した子どもを対象に日帰り交流会を行った。天候にも恵まれ、サッカーや大縄跳び、フリスビーなど、スポーツを中心に活動した。学生の代表数名が保護者の方たちと話し合う機会も設けた。

(3) 冬キャンプ

【実施期間】2014年12月23日～26日

【開催地】(株)ブリヂストン保養所 奥多摩園

【参加内訳】子ども26名、学生ボランティア37名（途中入替わりを含む）、スタッフ・協力者15名

【主な内容】

| | |
|---------|----------------------------------|
| 12月 21日 | 開会式、クリスマス会 |
| 12月 22日 | 朝の勉強会、海外の文化に触れる（タイ王国紹介、料理体験） |
| 12月 23日 | 運動会、大学生が行う授業、音楽会（フルート・バイオリン・ピアノ） |
| 12月 24日 | 閉会式、写真スライドショー |

(4) 2015年春の交流会

【実施日】2015年3月29日（日帰り）

【開催地】宮城県仙台市（仙台市生涯学習支援センター、仙台市天文台）

【実施内訳】子ども12名、学生ボランティア17名、社会人スタッフ3名

【主な内容】午前中ドッジボールなどで思い切り体を動かし、午後はプラネタリウムを楽しんだ。昼食時には参加者全員で、この春高校を卒業し専門学校へ進学する子どもをお祝いした。この活動が子どもたちの大切な「居場所」であると同時に「夢の応援」の場としても充実したものとなるよう努めたい。

2. その他事業

(1) 広報活動

以下のイベントで夢のつばさプロジェクトの活動紹介を行いました。

| 日時 | 実施イベント | | 対象 | 開催地 |
|--------------|---------------------------------------|----------------------------------|-----------------------|---------------------|
| 2014. 6. 12 | ふれあい塾あびこ | サイエンスカフェにようこそ！ | 一般 約40名 | 我孫子市 |
| 2014. 7. 18 | 日本学術会議・富山房インターナショナル共催 第92回サイエンスカフェ | 巨大地震大津波に備える先進科学技術～南海トラフ巨大地震を例にして | 一般 約30名 | 東京都 |
| 2014. 8. 3 | 日本の次世代養成塾 | 自分自身を知るための生命の科学 | 高校生 約160名 | 宗像市 |
| 2014. 9. 8 | 東京女子医科大学看護専門学校 | 夢のつばさプロジェクト | 看護学生 約80名 | 東京都 |
| 2014. 10. 16 | 山梨大学 男女共同参画 トップセミナー | 女性科学者のエンパワーメント | 大学関係者50名 大学生 約200名 | 甲府市 |
| 2014. 11. 9 | サイエンスアゴラ 日本学術会議主催公開シンポジウム | 地震・津波研究の現状とその進展のための人材育成 | 一般 約30名 | 東京都 |
| 2014. 12. 11 | 福岡県立輝翔館中等教育学校 講演会 | 研究者という生き方一人々の夢の実現と社会的課題の解決に向けて | 中学生・高校生 約200名 | 福岡県 八女市 |
| 2015. 1. 13 | 東日本大震災復興教育支援事業 | 理科教材研修会および意見交換会 | 岩手県小中高教員、教育委員会委員 約40名 | 岩手県 大船渡市、 宮古市 |

(2) ボランティア学生の自主活動

ボランティアの大学生らは、スタッフとの連携の下、週1回、お茶の水女子大学内で会合を開いて、夏・冬のキャンプや秋・春の交流会の準備や振り返りを行っている。また、子どもたちへ誕生日カードを送ったり、近況を報告しあう新聞を作成したりして、子どもや学生間の交流を図っている。夢のつばさプロジェクトの広報や活動資金獲得に対しても関心を持って参加し、自主的な募金活動も続けている

(8月には有志が地域の商店街のお祭りに参加、12月に市民マラソンの手伝いを兼ねて広報活動を行った)。本年度は、OB/OG会の立ち上げを検討しており、卒業して就職しても、引き続き夢のつばさの活動に関わろうとする学生が出始めている。

3. 総括

参加者募集は順調に進められており、募集人数を超える応募が続いている。本年度、岩手県や福島県の教育委員会から学校を通じて新しい参加者申込みがあった。東北各地の教育委員会や児童家庭課等と連絡を絶やさないように、キャンプごとに連絡報告を行っている。

キャンプ活動では、引き続き子どもの興味関心を広げ、豊かな情緒を育てていけるように、幅広い活

動を実施することに努めている。音楽会、スポーツ活動、社会見学などでは、快く企画にご協力くださる方も多く、有意義な活動が続けられている。子どもや活動に携わる大学生たちが、こうしたご厚意に対して感謝することを忘れないよう留意させたい。ゲストをお呼びする企画では、子どもから開始・終了の挨拶をして感謝の意を表すように促しているが、まだ徹底できずにいるので、今後の課題としたい。本年度は学生ボランティア代表と社会人ボランティアスタッフの会議を6回開催して、スタッフ間の意志の疎通を図っており、学生代表陣の理解はかなり進んでいる。

参加した子どもたちの状況は次第に変化している。回復しつつある家庭もあれば、家庭内の変化があってさらに孤立感を深める子どもがあったり、仮設住宅の周辺環境が悪化したり、格差が開いているように感じられる。時間経過とともに子どもも成長し、問題が複雑化している様子が伺えて、きめ細かな対応が必要になっていると考えられる。

夢のつばさプロジェクトは、2014年度、のべ22団体、個人217名からご寄付をいただいた（3月末現在）。東日本大震災から4年が過ぎ、新規の個人寄付者及び金額は確かに減少を続けているが、継続してご支援くださる方や、団体、企業などに支えられて活動を続けている。平成26年度末、高校生活を終え専門学校に入学した子どもが出て、今後も高校卒業者が続くため、わずかな支援ではあるが、高校卒業お祝い金及び夢のつばさプロジェクト奨学金制度を整えた。